

HUMOR ABSORPTIVE ARTICLE

Publication number: JP10137284 (A)

Publication date: 1998-05-26

Inventor(s): NASU MIEKO +

Applicant(s): SHISEIDO CO LTD +

Classification:

- **international:** **A61F13/494; A61F13/15; A61F13/514; A61F13/515; A61F13/15; (IPC1-7): A61F13/15**

- **European:**

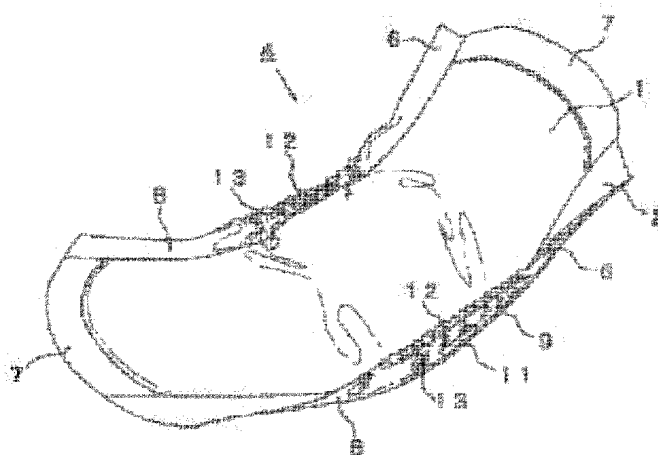
Application number: JP19960302941 19961114

Priority number(s): JP19960302941 19961114

Abstract of JP 10137284 (A)

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a humor absorptive article which is three-dimensionally fittable to the inside of thigh of a wearing person, imparts a good wearing feel to this person and well dam up humor by rising parts so as to surely prevent lateral leakage by forming the rising parts on both sides of the humor absorptive article and forming the humor absorptive into an arc shape in the longitudinal direction and transverse direction.

SOLUTION: This absorptive article is formed by interposing an absorption layer which is narrower than a front surface sheet 1 and has humor absorptivity between this water permeable front surface sheet 1 and a water-impermeable leakproof sheet 2 which is broader than the front surface sheet 1. Both sides in the longitudinal direction of this leakproof sheet 2 are turned back to the front surface sheet 1 side to form side flaps 6 on both sides of the absorption layer 3. A pair of turnback pieces 8 formed by turning back these side flaps 6 to the front surface sheet 1 side are fixed at a specified length in the central part on the side inner than the turnback edges 9 and thereafter, the inner edges 12 of the turnback pieces 8 are risen to form the rising parts 13 at the side flaps 6.



Data supplied from the **espacenet** database — Worldwide

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-137284

(43) 公開日 平成10年(1998) 5月26日

(51) Int.Cl.⁶

A 6 1 F 13/15

識別記号

F I

A 6 1 F 13/18

3 3 2

3 2 0

A 4 1 B 13/02

K

審査請求 未請求 請求項の数 6 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号

特願平8-302941

(22) 出願日

平成8年(1996)11月14日

(71) 出願人 000001959

株式会社資生堂

東京都中央区銀座7丁目5番5号

(72) 発明者 那須 美恵子

神奈川県横浜市港北区新羽町1050 株式会

社資生堂第1リサーチセンター内

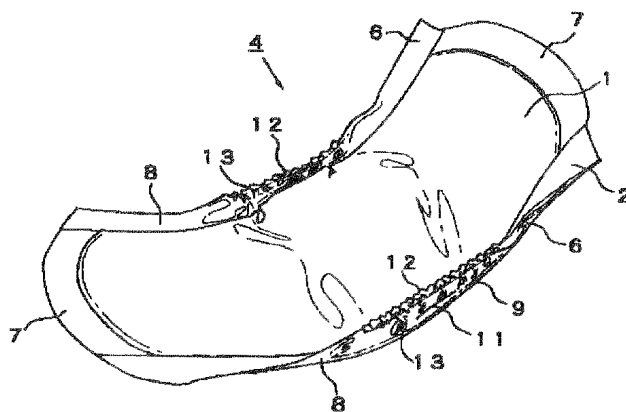
(74) 代理人 弁理士 清水 修

(54) 【発明の名称】 体液吸収性物品

(57) 【要約】

【課題】 体液吸収性物品の両側に立上げ部を形成し、体液吸収性物品を長さ方向及び幅方向に円弧状とする事により、装着者の内股に立体的にフィット可能とし、良好な装着感を与える。また、立上げ部で体液を良好にせき止めて、横漏れを確実に防止する。また、このような効果を持つ体液吸収性物品を、容易な製造方法で廉価に形成する事を可能とする。

【解決手段】 透水性の表面シート1と、この表面シート1よりも幅広の非透水性の防漏シート2との間に、表面シート1よりも幅狭な体液吸収性の吸収層3を介装する。そして、防漏シート2の長さ方向の両側を表面シート1側に折り返して、吸収層3の両側にサイドフラップ6を形成する。このサイドフラップ6を表面シート1側に折り返して形成した一对の折返し片8を、折返し縁9よりも内側の中央部分で一定の長さで固定した後、折返し片8の内側縁12を立ち上げて、サイドフラップ6に立上げ部13を形成する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 透水性の表面シートと、この表面シートよりも幅広の非透水性の防漏シートとの間に、表面シートよりも幅狭な体液吸収性の吸収層を介装し、防漏シートの両側を表面シート側に折り返して表面シートと積層する事により、吸収層の両側にサイドフラップを形成し、このサイドフラップを表面シート側に折り返して一対の折返し片を形成し、この一対の折返し片の長さ方向の中央部分の、折返し縁よりも吸収層側を表面シートに一定の長さで固定して固定部を形成する事により、折返し片の内側縁を立上げて立上げ部を形成した事を特徴とする体液吸収性物品。

【請求項2】 防漏シートの表面シート側への折り返しは、折り返した防漏シートの下面に、表面シートを配置して行う事を特徴とする請求項1の体液吸収性物品。

【請求項3】 防漏シートの表面シート側への折り返しは、折り返した防漏シートの上面に、表面シートを配置して行う事を特徴とする請求項1の体液吸収性物品。

【請求項4】 立上げ部は、固定部に於ける立上幅を5.0mm～30.0mmとした事を特徴とする請求項1の体液吸収性物品。

【請求項5】 固定部は、固定長さを10.0mm～100.0mmとした事を特徴とする請求項1の体液吸収性物品。

【請求項6】 折返し片は、内部に弾性体を挿入した事を特徴とする請求項1の体液吸収性物品。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、生理用ナプキン、尿失禁用パッド、その他の体液吸収性物品に係るものである。

【0002】

【従来の技術】従来、生理用ナプキン、尿失禁用パッド、その他の体液吸収性物品に於いて、体液の横漏れを防止するとともに、装着者の装着感を向上させるために、吸収性物品の両側部を立上げて、立体的なサイドフラップを設けたものが存在する。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、吸収性物品は装着者の股部に装着するものであり、この股部は縦方向、横方向に丸みを帯びているが、従来の立体的なサイドフラップは吸収性物品の表面に直線的に立上げて形成している。そのため、装着者の内股部の内側の曲線に合わせて、吸収性物品を湾曲しながら装着すると、直線的なサイドフラップの立上げ部分がよれたりつぶれたりして、立体的に立ち上がらないものとなっていた。そのため、体形にフィットせず、肌とサイドフラップとの間隔に隙間が生じ、この隙間から体液が外部に漏れて、下着や衣類を汚してしまう事があった。

【0004】そこで、サイドフラップに弾性体を挿入し

て立体的なギャザーを形成すると、弾性体の収縮力により、吸収性物品及び立体ギャザーが、長さ方向で肌当接側に弧状に湾曲するから、長さ方向では装着者の股部に密着し易いものとなる。しかし、装着者の股部に装着すると、立体ギャザーの両側は直線的なままであるから、この立体ギャザーが弧状を呈した内股に押圧されて、立上げ部分がつぶれ、うまく立ち上がらないものとなり、横漏れ防止機能を十分に発揮できないものとなるし、装着感も悪くなっていた。

10 【0005】上記の如き欠点を解決するために、実公平3-9698号公報記載の如き生理用ナプキンが存在する。この生理用ナプキンは、外周部を圧縮して薄く形成する事により、サイドフラップとエンドフラップを形成している。そして、サイドフラップの中央部分を肌当接面側に折り返し、この折返し部分全体を熱融着等により止着固定して固定部を形成している。この止着固定により、サイドフラップの固定部では生理用ナプキンは幅狭で、エンドフラップ側では幅広となる。また、サイドフラップには、斜面を有する壁面が長さ方向に形成され、この壁面で、体液の横漏れを防ごうとするものである。

20 【0006】従って、上述の生理用ナプキンは、サイドフラップの固定部では幅狭で、エンドフラップ方向に次第に幅広となるから、両側が内側弧状となり、装着者の内股の丸みにフィットする。そして、装着中に内股に押圧されて生理用ナプキンが内側によれたりしないものとなる。更に、平面的な生理用ナプキンが、固定部の止着により、エンドフラップ部分が肌当接面側に引き寄せられ、側面形状が長さ方向に弧状となるから、生理用ナプキンが装着者の股部の前後方向にもフィットするものとなる。このように、生理用ナプキンが長さ方向でも幅方向でも、装着者の丸みを帯びた股部にフィットするから、使用中も動きによって、よれたり、ずれたりしにくくなり、良好な装着感を得る事が可能となる。

30 【0007】しかしながら、上記の従来例は、サイドフラップの固定部は、圧縮して薄く平面的に形成しているから、この固定部と肌との間隔に隙間を生じてしまう。そのため、体液はこの固定部と肌との隙間から横漏れを生じ、横漏れ防止機能が不十分なものとなっていた。

40 【0008】本発明は上述の如き課題を解決しようとするものであって、体液吸収性物品の両サイドを立上げて立体的に形成する事により、体液の横漏れを効率良く防止しようとするものである。また、立体的に形成する事により、吸収性物品の両側を内側弧状とするとともに、長さ方向にも弧状に湾曲して、装着者の股部の前後左右方向に立体的に接触させ、よれや隙間を生じさせずに良好な装着感を得ようとするものである。そして、上記の如き効果を有する吸収性物品を、手間や材料をかけずに、廉価に形成する事を可能とするものである。

【0009】

50 【課題を解決するための手段】本発明は上述の如き課題

を解決するため、透水性の表面シートと、この表面シートよりも幅広の非透水性の防漏シートとの間に、表面シートよりも幅狭な体液吸収性の吸収層を介装し、防漏シートの両側を表面シート側に折り返して表面シートと積層する事により、吸収層の両側にサイドフラップを形成し、このサイドフラップを表面シート側に折り返して一対の折返し片を形成し、この一対の折返し片の長さ方向の中央部分の、折返し縁よりも吸収層側を表面シートに一定の長さで固定して固定部を形成する事により、折返し片の内側縁を立上げて立上げ部を形成して成るものである。

【0010】また、防漏シートの表面シート側への折り返しは、折り返した防漏シートの下面に、表面シートを配置して行っても良い。

【0011】また、防漏シートの表面シート側への折り返しは、折り返した防漏シートの上面に、表面シートを配置して行っても良い。

【0012】また、立上げ部は、固定部に於ける立上幅を5.0mm～30.0mmとしても良い。

【0013】また、固定部は、固定長さを10.0mm～100.0mmとしても良い。

【0014】また、折返し片は、内部に弾性体を挿入しても良い。

【0015】

【作用】本発明は上述の如く、サイドフラップを表面シート側に折り返して形成した折返し片を、折返し縁よりも吸収層側を表面シートに一定の長さで固定して固定部としている。そのため、使用時にナプキン本体を長さ方向に伸張すると、固定部を中心として吸収層の両側に折返し片の内側縁が立ち上がり、サイドフラップには中央部から両先端部にかけて壁面状の立上げ部が形成される。

【0016】また、サイドフラップを内側に折り返して折返し片を設け、固定部を形成しているから、吸収性物品はこの固定部に於いて幅狭であり、長さ方向の両先端部はサイドフラップの折返し片を固定していないから、この両先端部に於いて幅広である。そして、立上げ部は、固定部の部分で壁面の傾斜角度が急で、先端部方向に次第に傾斜角度が緩やかな壁面を形成するものとなる。従って、吸収性物品の固定部のくびれと幅広の両先端部との間は、滑らかな曲線を描き、装着者の内股の丸みにフィットするものとなる。そのため、直線的に形成した場合の如く、内股に押圧されて立上げ部が押しつぶされたり、よれたりする事がなく、立上げ部は立ち上がり状態を保持して立体的に肌に接触する。

【0017】また、折返し片を中央部分で表面シートに固定する事により、両先端部が表面シート側の中央方向に引き寄せられるから、吸収性物品が長さ方向に弧状に湾曲する。従って、吸収性物品は装着者の股部の前後方向の形状にフィットするものとなる。このように、幅方

向の両側にくびれを形成するとともに、長さ方向にも弧状を呈して立体的な吸収性物品が得られ、装着者の股部に装着した時に、肌と吸収性物品との間隔に隙間が生じる事がなく、確実にフィットするものとなる。また、立上げ部が装着者の内股の押圧で、よれる事がなく立ち上がり状態を保持するから、この立上げ部が立体的にフィットして肌との隙間を防ぐものとなる。

【0018】そして、本発明の吸収性物品を装着中に、装着者から体液が排出されると、この体液は表面シート上に拡散してこの表面シートに浸透した後、吸収層で迅速に吸収される。また、固定部と立上げ部により、吸収性物品が長さ方向にも幅方向にも立体的な舟型形状となるから、体液が吸収性物品の中心部で受け止め易いものとなる。そして、装着者から体液が大量に放出されると、中心部で吸収しきれず、体液が表面シート上を横方向に浸透して、サイドフラップに到達する。このサイドフラップは、防漏シートで立上げ部を形成しているから、体液は、この立上げ部にせき止められる。更に、この立上げ部は、肌に立体的に接触して隙間を形成しないから、せき止められた体液が外部に漏れる事がないものとなり、横漏れを確実に防止する事が可能となる。

【0019】また、サイドフラップは体液を吸収しない事により、このサイドフラップの肌接触部分が体液で汚れず、このサイドフラップの肌接触側から裏面側に体液がしみ出す事がない。従って、下着等に体液の汚れが付着する事がないし、装着者に内股が湿った不快感を与えない。このように、サイドフラップを立ち上げて形成した立上げ部により、体液を良好にせき止めて、確実に横漏れを防止する事が可能となり、装着者の安心感を増すものとなる。

【0020】上述の如く、本発明の吸収性物品は、立体的な装着者の股部に、長さ方向にも幅方向にも立体的にフィットするものとなるから、装着時や、装着後の装着者の動きによってもよれたりせず、良好な装着感を得る事ができる。また、横漏れを確実に防ぐ事により、装着者に安心感を与えるから、更に使い心地の良好なものとなる。

【0021】また、吸収性物品を製造する過程に於いて、防漏シートを両側から表面シート側に折り返して、表面シートと積層する際には、折り返した防漏シートの下面に、表面シートを配置して行っても良いし、折り返した防漏シートの上面に、表面シートを配置して行っても良い。折り返した防漏シートの下面に、表面シートを配置する場合は、防漏シート、吸収層、表面シートをそれぞれ順次配置した後、防漏シートの両側を表面シート側に折り返して、この防漏シートの縁を表面シートの上面に積層する。

【0022】また、折り返した防漏シートの上面に、表面シートを配置する場合は、防漏シートの上面に吸収層を配置し、防漏シートの両側を吸収層側に折り返して、

防漏シートの上面に、この折り返した防漏シート部分を積層する。その後、吸収層の上面に表面シートを配置し、この表面シートの縁を防漏シートの積層部分に積層する。何れの方法でも、サイドフラップは防漏シートで形成されるとともに、吸収層が防漏シートと表面シートで確実に被覆されるものとなる。製造機械の性能やデザイン等に応じて、製造し易い方法を適宜選択する。

【0023】また、立上げ部は、立上幅を5.0mm～30.0mmで形成すれば、立上げ部が良好に立ち上がるとともに、装着者の股部の幅方向両側の丸みに合うような断面コ字型を呈し、立上げ部の縁が肌に密着して隙間を防ぎ、体液の横漏れを良好に防止するものとなる。また、立上げ部の立上幅を5.0mmよりも幅狭に形成すると、立ち上がりが低くて、立上げ部の縁が肌に接触せず、肌と立上げ部との間隔に隙間が生じる事となり、大量の体液が放出された場合、この体液を十分にせき止めて横漏れを防止する事が不可能となる。

【0024】また、立上げ部を30.0mmよりも大きく立ち上げると、立上げ部が自身の重みでうまく立ち上がらず、内側や外側に倒れた状態で装着する事となり、横漏れ防止機能を発揮する事が不可能となる虞れがある。または、立上げ部が高張って、表面シートと肌とが良好に接触せず、吸収性物品が肌から浮いた感じがして装着感が悪いものとなるし、吸収性物品の先端部でも肌と密着せずに隙間が生じ、この隙間から装着者の股部の前後方向に体液が漏れる虞れがある。

【0025】また、固定部は、固定長さを10.0mm～100.0mmで形成すれば、吸収性物品が固定部で幅狭で、先端部方向に次第に幅広となり、折返し片から両先端部にかけてのサイドフラップの形状が、装着者の内股の丸みにフィットするような適度な曲線を描くものとなる。そのため、吸収性物品を装着時に、サイドフラップの立上げ部が内股の押圧でよれたりしないものとなり、良好な装着感を得る事ができる。

【0026】また、固定部の固定長さを10.0mmよりも短く形成すると、吸収性物品を広げた際の反動や、装着中の動いた際の押圧力により、固定部の止着が外れて立上げ部が形成されず、吸収性物品が平面的なものとなる可能性がある。そうすると、立上げ部による横漏れ防止効果がないものとなる。また、固定部の固定長さを100.0mmよりも長く形成すると、サイドフラップの折返し片から先端部にかけての曲線が形成されず、立上げ部が直線的なものとなり、装着者の内股の丸みにフィットしないものとなる。そのため、装着者の内股の押圧で立上げ部がよれ、肌に立体的に接触せずに隙間が生じ、横漏れ防止が不完全なものとなる。

【0027】また、上記の如き立上げ部の立上幅と、固定部の固定長さは、体液吸収性物品の大きさや厚さを考慮して上記の範囲で適宜に形成する。この大きさや厚さは、体液吸収性物品の種類や使用目的により、様々であ

る。例えば、生理用ナプキンであれば、薄型、普通型で厚さが変わり、薄型の場合は、薄いから普通型に比べて固定部を短く形成しても、止着が外れる事はなく立上げ部を形成できる。また、夜用、日中用、長時間用等の使用時間帯によっても大きさや厚さが変わり、それぞれに最適な位置で止着固定して立上げ部や固定部を形成する。また、尿失禁用パッドの場合も、その大きさや厚さに応じて、最適な固定部の固定長さや立上げ部の立上幅を決定し、立上げ部を形成する。

10 【0028】また、折返し片は、内部に弾性体を挿入して形成すれば、折返し片の内側縁が良好に立ち上がり、折返し片から先端部にかけてのサイドフラップの曲線がより滑らかとなる。そのため、立上げ部が肌と柔軟に接触して装着感が良好なものとなる。更に、立上げ部の立ち上がりに適度な張りとし、こしが生じるから、吸収性物品を装着中に、装着者が激しく動いて、内股や股部で立上げ部を強く押圧しても、よれにくいものとなる。たとえば、立上げ部がよれたり押しつぶされても、元の形状に復元して確実に装着者の肌にフィットするものとなる。

20 【0029】

【実施例】以下本発明を生理用ナプキンで実施した一実施例を図面に於て説明すれば、図2に示す如く、(1)は表面シートで、メッシュシート、不織布等の透水性の素材にて形成している。また、この表面シート(1)の裏面側には、表面シート(1)よりも幅広でポリエチレン等の非透水性の素材から成る防漏シート(2)を配置している。また、表面シート(1)と防漏シート(2)との間に、体液吸収性の吸収層(3)を介装してナプキン本体(4)を形成している。この吸収層(3)は、コットン、パルプ、30 吸収性高分子等の素材から構成し、表面シート(1)及び防漏シート(2)よりも幅狭に形成している。そして、防漏シート(2)の両側部で、表面シート(1)よりも幅広部分に、ポリウレタンフォーム等で形成したシート状の弾性体(5)を配置している。

【0030】この弾性体(5)を内側にして、防漏シート(2)を両側から表面シート(1)側に折り返した後、防漏シート(2)の縁を表面シート(1)の上面に積層し、吸収層(3)の外周部で防漏シート(1)及び表面シート(2)を熱融着によって止着している。この止着により、ナプキン本体(4)の両側に、一対のサイドフラップ(6)を形成している。このように、内部にシート状の弾性体(5)を挿入してサイドフラップ(6)を形成するとともに、この弾性体(5)を被覆内装する事により、サイドフラップ(6)全体に張りとし、厚みが出て、よれにくいものとなるし、よれに対する復元力も増し、肌との接触感も良好となる。また、サイドフラップ(6)の縁が丸みを帯び、装着者の肌への当たりが柔らかいものとなる。更に、弾性体(5)に引張り力を加えた状態で止着すれば、弾性体(5)の復元力により、図1に示す如く、サイドフラップ(6)にギャザーが形成され、中央方向に良好な湾曲が生

じる。

【0031】また、ナプキン本体(4)の長さ方向の両端部も、吸収層(3)の外周で表面シート(1)と防漏シート(2)とを熱融着で止着して、一対のエンドフラップ(7)を形成している。

【0032】そして、サイドフラップ(6)は、両側を折返し縁(9)から表面シート(1)側に折り返し、一対の折返し片(8)を形成している。そして、この折返し片(8)は図2、図3に示す如く、折返し縁(9)よりも内側の吸収層(3)側の中央部を、表面シート(1)に一定の長さで、接着剤や熱融着等により止着固定し、固定部(11)を形成している。そして、ナプキン本体(4)の製造時は、サイドフラップ(6)全体を表面シート(1)側に折り返した状態で、長さ方向に3つ折りして、個装袋に収納する。そのため、使用時に個装袋からナプキン本体(4)を取り出し、長さ方向に伸張すると、固定部(11)を中心として、吸収層(3)の両側に折返し片(8)の内側縁(12)が立ち上がる。そして、サイドフラップ(6)には、中央の固定部(11)から両方のエンドフラップ(7)にかけて、壁面状の立上げ部(13)が形成される。

【0033】上述の如く伸張したナプキン本体(4)は、図2、図3に示す如く、折返し片(8)を中央部分で固定し、一定長さの固定部(11)を形成しているから、この固定部(11)に於いては幅狭であり、また両方のエンドフラップ(7)側では、図2、図4に示す如く、折返し片(8)を固定していないから幅広である。そして、サイドフラップ(6)の立上げ部(13)は、固定部(11)の部分では、壁面の傾斜角度が急で、両方のエンドフラップ(7)方向に次第に傾斜角度が緩やかとなる。

【0034】従って、ナプキン本体(4)の固定部(11)のくびれと幅広の両サイドフラップ(6)との間は、図1、図2に示す如く、滑らかな曲線を描き、装着者の内股の丸みにフィットするものとなる。更に、サイドフラップ(6)には弾性体(5)を挿入しているから、立上げ部(13)には張りど、こしが出て、立ち上がりが安定し、フィット感が向上するとともに、肌で多少押圧されても、立上げ部(13)がよれたり、つぶれたりしにくいものとなり、良好な立ち上がり状態を保持して肌に接触するものとなる。

【0035】また、折返し片(8)を中央部分で表面シート(1)に固定する事により、両方のエンドフラップ(7)が表面シート(1)側の中央方向に引き寄せられて、ナプキン本体(4)の側面形状が長さ方向に弧状に湾曲する。そのため、ナプキン本体(4)は装着者の股部の前後方向の形状にもフィットするものとなる。

【0036】また、固定部(11)の固定長さは、10.0mm~100.0mmで形成すると良いし、立上げ部(13)の立上幅が、5.0mm~30.0mmとなるような位置で固定すると良い。何れも吸収性物品の大きさや厚さを考慮して、上記の範囲で適宜決定する。そし

て、本実施例の生理用ナプキンでは、立上げ部(13)の立上幅を7.0mmの幅で形成し、固定部(11)の固定長さを30.0mmで形成する事により、上述の如く、サイドフラップ(6)には、装着者の股部の丸みや内股の曲線にフィットするような形状と角度で立上げ部(13)が形成される。

【0037】上述の如く、生理用ナプキンは、幅方向の両側にくびれを形成するとともに、長さ方向にも弧状で立体的な製品となるから、この生理用ナプキンを装着者の股部に装着すると、表面シート(1)と立上げ部(13)とで股部を包み込んで、肌とナプキン本体(4)との間隔に隙間が生じる事がなく、ナプキン本体(4)が肌に確実にフィットするものとなる。更に、装着中に激しく動いた場合でも、上述の如く長さ方向にも幅方向にも立体的にフィットしているから、ナプキン本体(4)のよれや、ずれが生じにくくなる。たとえ、強い押圧力で立上げ部(13)がよれたり、つぶれたりしても、弾性体(5)の弾性復元力により、立上げ部(13)は元の形状に復元して良好に立ち上がり、肌に立体的に接触する。従って、装着者に安心感を与えるとともに、良好な装着感が持続する。

【0038】そして、生理用ナプキンを装着中に、装着者から体液が排出されると、この体液は表面シート(1)を通過して吸収層(3)で迅速に吸収される。そして、大量の体液が排出された場合は、吸収層(3)での吸収が追いつかず、体液は表面シート(1)上を横方向に浸透して、サイドフラップ(6)に到達する。このサイドフラップ(6)は、防漏シート(2)で立上げ部(13)を形成しているから、体液はこの立上げ部(13)でせき止められる。更に、この立上げ部(13)は上述の如く、肌への立体的な接触を保持して隙間を生じないから、立上げ部(13)でせき止められた体液が、この立上げ部(13)から外部に漏れる事がなく、横漏れを確実に防止できる。その後、立上げ部(13)でせき止められた体液は、表面シート(1)を通過して、吸収層(3)で確実に吸収される。

【0039】また、防漏シート(2)で形成した立上げ部(13)は体液を吸収しないから、立上げ部(13)の肌接触部分が常に乾いた状態となり、装着者に良好な使用感を与える。更に、防漏シート(2)を、裏面から肌当接側に折り返して形成しているから、下着に接触する部分であるナプキン本体(4)の裏面や、サイドフラップ(6)の縁には体液が染み出る事がない。従って、下着や衣類が体液で汚れたりしにくいものとなり、装着者の安心感が更に増すものとなる。

【0040】また、体液が固定部(11)方向に浸透した場合でも、この固定部(11)は、折返し片(8)の全面を止着したのではなく、折返し片(8)の一部のみ止着固定し、その内側縁(12)を立ち上げて、立体的な立上げ部(13)を形成しているから、この固定部(11)でも確実に

に体液をせき止めて、横漏れを防止するものとなる。

【0041】また、上記実施例では、サイドフラップ(6)に挿入する弾性体(5)を、シート状のポリウレタンフォームで形成しているが、弾性変形可能で、ナプキン本体(6)が弧状に変形可能となるものであれば、加硫天然ゴム、合成ゴム、ポリウレタンフィルム、ポリエチレンフィルム、その他の熱可塑性エラストマー等の材料を使用して弾性体(5)を形成しても良い。

【0042】また、上記実施例では、防漏シート(2)を表面シート(1)側に折り返してサイドフラップ(6)を形成する場合に、図4に示す如く、折り返した防漏シート(2)の下面に、表面シート(1)を配置しているが、折り返した防漏シート(2)の上面に、表面シート(1)を配置しても良い。この第2実施例では、図5に示す如く、防漏シート(2)を両側から吸収層(3)側に折り返し、この折り返した防漏シート(2)を防漏シート(2)本体の上面に積層する。そして、吸収層(3)の上面に表面シート(1)を配置するとともに、この表面シート(1)の縁を防漏シート(2)の積層部分に積層した後、吸収層(3)の外周部で、防漏シート(2)及び表面シート(1)を熱融着に

よって止着し、サイドフラップ(6)を形成している。

【0043】また、上記の実施例では、本発明を生理用ナプキンに用いているが、尿失禁用パッド、その他の体液吸収性物品に用いる事も可能である。

【0044】

【発明の効果】本発明は上述の如く構成したものであるから、体液吸収性物品の両側に立上げ部を形成し、体液吸収性物品の両側の形状を円弧状の凹部として装着者の

内股に立体的にフィット可能とする。また、長さ方向にも弧状に湾曲して、装着者の股部の丸みにフィットするものとなる。このように、装着者の肌に立体的にフィットする事により、装着者に良好な装着感を与えるものとなる。また、立上げ部が立体的に立ち上がって、肌に隙間無く接触する事により、体液を良好にせき止めて、横漏れを確実に防止する事が可能となる。

【0045】また、上記の如き効果を有する製品を、サイドフラップを内側に折り返して、一部を止着固定するだけで簡単に形成できるから、手間やコストがかからず、廉価な製品を形成できるものとなる。

【図面の簡単な説明】

【図1】生理用ナプキンの斜視図。

【図2】生理用ナプキンの平面図。

【図3】図2のA-A線の拡大断面図。

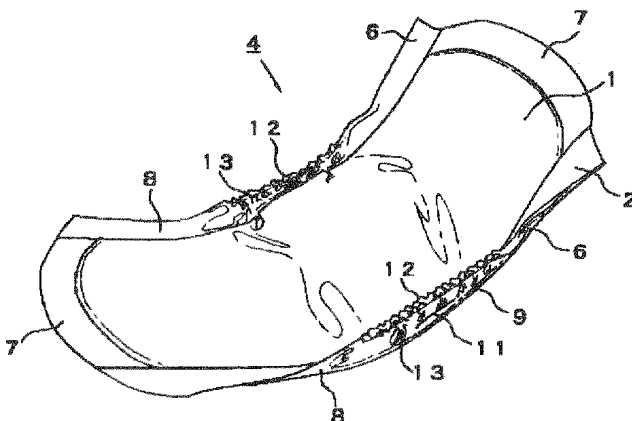
【図4】図2のB-B線の拡大断面図。

【図5】防漏シートの両側を折り返して、その上面に表面シートを配置した第2実施例の生理用ナプキンのサイドフラップ方向に於ける断面図。

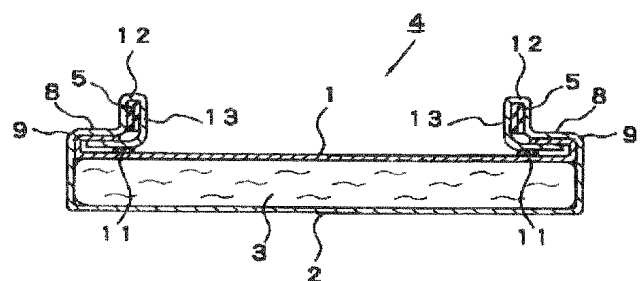
【符号の説明】

- 1 表面シート
- 2 防漏シート
- 3 吸収層
- 5 弾性体
- 6 サイドフラップ
- 8 折返し片
- 11 固定部
- 13 立上げ部

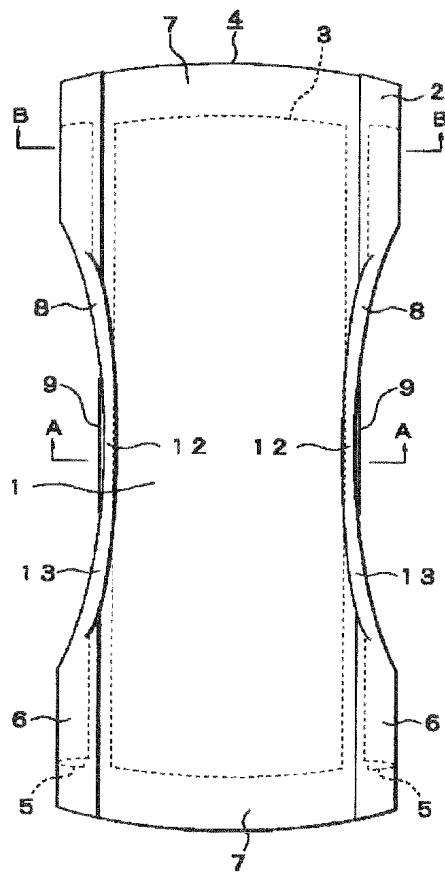
【図1】



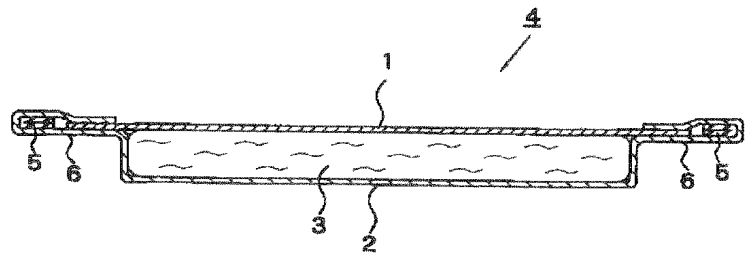
【図3】



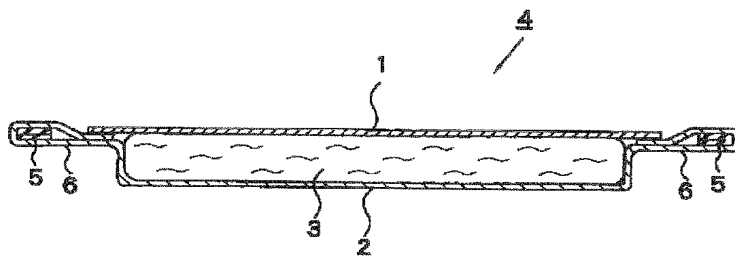
【図2】



【図4】



【図5】



【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
【部門区分】第1部門第2区分
【発行日】平成14年6月4日(2002. 6. 4)

【公開番号】特開平10-137284
【公開日】平成10年5月26日(1998. 5. 26)
【年通号数】公開特許公報10-1373
【出願番号】特願平8-302941
【国際特許分類第7版】

A61F 13/15

【F I】

A61F 13/18 332

320

A41B 13/02 K

【手続補正書】

【提出日】平成14年3月14日(2002. 3. 14)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0030

【補正方法】変更

【補正内容】

【0030】 この弾性体(5)を内側にして、防漏シート(2)を両側から表面シート(1)側に折り返した後、防漏シート(2)の縁を表面シート(1)の上面に積層し、吸収層(3)の外周部で防漏シート(2)及び表面シート(1)を熱融着によって止着している。この止着により、ナプキン本体(4)の両側に、一対のサイドフラップ(6)を形成している。このように、内部にシート状の弾性体(5)を挿入してサイドフラップ(6)を形成するとともに、この弾性体(5)を被覆内装する事により、サイドフラップ(6)全体に張り厚みが出て、よれにくいものとなるし、よれに対する復元力も増し、肌との接触感も良好と

なる。また、サイドフラップ(6)の縁が丸みを帯び、装着者の肌への当たりが柔らかいものとなる。更に、弾性体(5)に引張り力を加えた状態で止着すれば、弾性体(5)の復元力により、図1に示す如く、サイドフラップ(6)にギャザーが形成され、中央方向に良好な湾曲が生じる。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0041

【補正方法】変更

【補正内容】

【0041】 また、上記実施例では、サイドフラップ(6)に挿入する弾性体(5)を、シート状のポリウレタンフォームで形成しているが、弾性変形可能で、ナプキン本体(4)が弧状に変形可能となるものであれば、加硫天然ゴム、合成ゴム、ポリウレタンフィルム、ポリエチレンフィルム、その他の熱可塑性エラストマー等の材料を使用して弾性体(5)を形成しても良い。